

## 令和5年度 人権に関するポスターコンクール審査講評(全体)

本年度は、県内各地の小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校261校の児童生徒並びに一般から計2,370点の応募があり、4名の審査員で審査を行いました。

小学校低学年の部は、人権の花「ひまわり」と、家族や友達が仲良く過ごしている様子を描くことで、みんなが大切な存在であることを表現した作品が多く見られました。クレヨンによる線描や、水彩絵の具等を使って明るい色で着色するなど、のびのびと楽しみながらポスター制作に取り組んだ様子が伝わってきました。

小学校中学年の部は、自分や友達が仲良く過ごす場面と「ひまわり」とを組み合わせ、人と人との温かなふれ合いを大切にしたい社会の実現を呼びかけた作品が多く見られました。メッセージに合わせて、描く絵の内容や着色方法などを工夫して、隅々まで粘り強く表現した様子が伝わってきました。

小学校高学年の部は、楽しい雰囲気で作風で、一人一人を大切にすることや他者への思いやりを大切にすることを呼びかけた作品が多く見られました。伝えるメッセージに応じて絵や呼びかけの言葉(コピー)、画面構成に工夫が凝らされ、丁寧に制作した様子が伝わってきました。

中学生の部は、どの作品も完成度が高く、各自が人権についてしっかり考え、ポスターで伝えたいという姿勢が伝わってきました。応募作品は、現代社会が抱える課題に対して、人権尊重の多様な視点から主題を発想し、見る側に考えさせる図案や訴える言葉(コピー)、レイアウト、配色等に工夫が凝らされていました。また、レタリングやポスターカラーによる着色も丁寧に表現されており、ポスターとしての仕上がりの美しい作品が多く見られました。

高校生の部は、今年度、参加校及び出品作品が共に少なかった点が残念でした。応募作品は、高校生らしい視点で主題を発想し、すっきりとした図案に色数を絞り込み丁寧に着色された作品が見られました。

特別支援学校の部では、人権について考え、自分の思いや願いを素直に伸び伸びと線描したものや鮮やかな色で楽しく着色した作品が多く見られました。主題を表現するために描かれた、笑顔の家族や友達、花、動物などが、見る側を優しい気持ちにさせてくれました。また、応募作品からは、一生懸命表現する児童生徒のみなさんの姿が感じられました。

全体的にどの作品も「人権を大切にしよう。」という思いを込めて表現されており、児童生徒のみなさんが人権に関するポスターを表現する中で、人権について深く考えていることがうかがえました。